

令和七年三月十三日(木)本校体育館におきまして、第六十四回卒業証書授与式を挙行いたしました。

実はこの日より遡ること二日の三月十一日、小原田中学校同窓会の入会式を行い、同窓会長の古川順一様より、卒業生へ向けてのお言葉をいただきました。開校当時、古川さんより二学年上の西田敏行さんたちは、秋口、郡山第三中学校より、自分の机と椅子をもって、現在の福島県東高校前の坂を歩いて下り、小原田中学校へとやって来たそうです。そこから六十四年の月日が流れ、今の小原田中学校があります。

ご来賓をお迎えし、保護者の人数に制限を設けず、在校生が参加して、卒業生の門出を祝福する、以前は当たりの光景であつたことですが、それが再開できたのは、ここ一、二年のことです。

在校生が加わることで、卒業式の有り様が大きく変わります。送ることばと「別れのことば」とを結び式歌、そこに心を大きく関わるとの対話があり、心と心とで中학교生活の思い出を振り返れば、必ずそこには、お互いが存在し、楽しい気持ちや苦しかった時の想いがよみがえります。

歌は、一瞬にして皆の心を思い出の場所に連れて行ってくれます。いつしか、その想いが心を温め、目かからは熱い涙がこぼれます。その涙は、曇った心を清らかにし、本来の自分の心が顔を表します。その心で互いを見つめれば、そこにはもうリスベクトルしかありません。いよいよ乗立ちの時です。互いに清い心で別れを受け入れ、それぞれの道に進みます。まだまだ足取りは弱々しいかも知れませんが、大きな節目は、しっかりと支えてくれます。子ともたふにとつて、こんなにも意味のある行事を、これからも大切にしていきたい、改めてそう思えた卒業式でした。